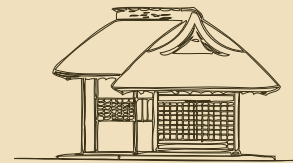


小平ふるさと村

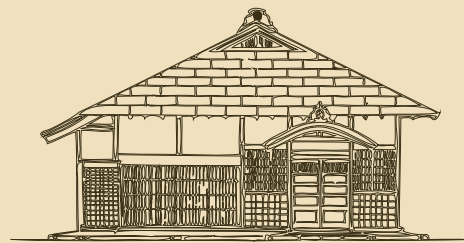
小平の地は、江戸時代初期の玉川上水の開通にともなって開発が行われた新田村落です。かつては、青梅街道をはじめ、東西に走る各街道沿いに屋敷森に囲まれた農家が並び、街道をはさんで農家の南北には短冊型の畑が続いていました。しかし近年は、小平の面影も大きく変わりつつあります。こうした中で小平市は、寄贈を受けた旧小川家住宅玄関棟ほか4棟の建物を解体保管してきました。市民の皆さんの郷土の文化に対する関心の高まりに応え、これらを文化遺産として後世に伝えていくために、平成5年5月に小平ふるさと村として開村しました。



旧小川家住宅玄関棟

小平の開発に重要な役割を果たした名主小川家玄関棟

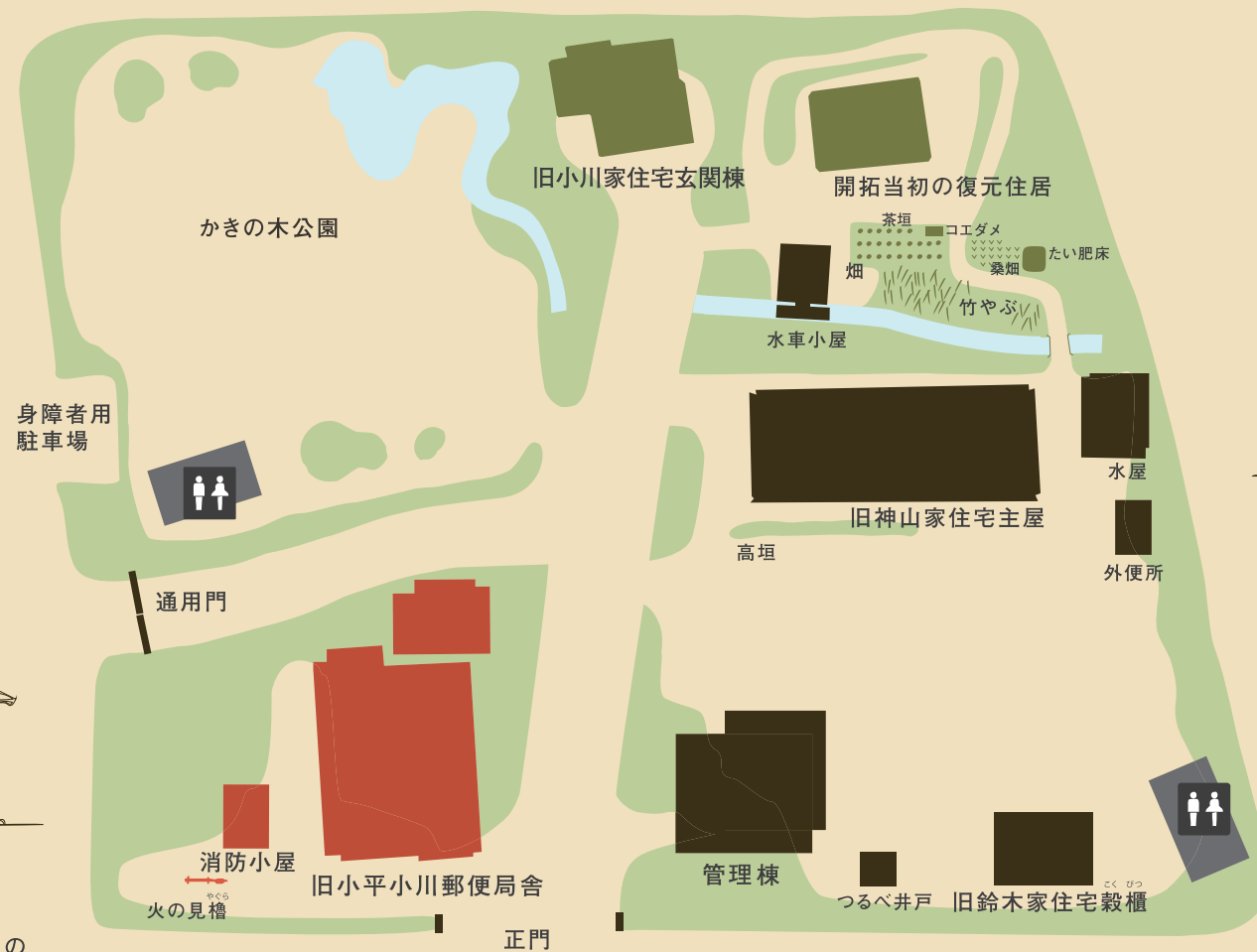
■ 平成5年3月1日指定
小平市有形文化財第10号



旧小平小川郵便局舎

現存する郵便局舎の中でも古いもののひとつであり、明治末期から昭和初期にかけての郵便局の様子を知ることができる建物

■ 昭和58年3月31日指定
小平市有形文化財第1号



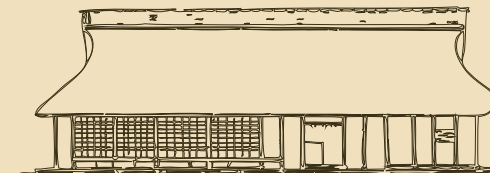
小平ふるさと村案内図

- 開拓ゾーン(江戸初期～中期)
- 農家ゾーン(江戸中期～後期)
- 近代ゾーン(明治以降)



開拓当初の復元住居

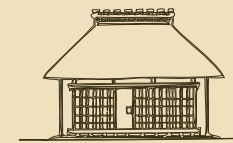
小川家に残る古文書に基づいて復元された小川村の開発当初の住居



旧神山家住宅主屋

江戸時代中期から後期にかけての武蔵野新田農家の姿と移り変わりを示す建物

■ 平成4年3月27日指定
小平市有形文化財第8号



旧鈴木家住宅穀櫃

江戸時代の後期、天災や飢饉のため幕府備荒貯蓄策によって各村に建てられた稗などの穀物を貯えておく稗倉の一種

■ 平成4年3月27日指定
小平市有形文化財第9号